

CPD 認定対象プログラム内容と CPD 単位数

[] 個別の単位申請は不要

形態区分		内容	CPD 単位数	備考	
I	研修会等へ参加	①協会が主催、共催、事務局となる研修会、講習会、講演会、シンポジウム、研究会、現地見学会等	1 単位/時間	★	
		②土壌医の会が主催、共催となる研修会、講習会、講演会、シンポジウム、研究会、現地見学会等 ※1 (土壌医の会の活動報告会も含む)			
II	技術指導	①上記(形態区分 I) 研修会等の講師、パネラー、助言者	3 単位/時間	I-①の講師は★	
		②農業現場への技術普及を目的して地方自治体、民間団体、企業が公式に開催する研修会等の講師、パネラー、助言者 ※2			
III	土づくり普及活動	①土づくり普及のため農業高校、農業大学校等に対する出前研修の講師(実施協議を含む) ②土づくり普及のため、土壌医の会の会員以外の方を主な対象とした研修会の講師(諸準備を含む) ③土づくり普及のため、土壌医の会の会員以外の方を主な対象とした pH 等測定・診断相談会の指導者(諸準備を含む) (活動に関わった正会員が対象) ※3	5 単位/時間 4 単位/時間 4 単位/回		
IV	報告文、刊行物等への発表	①機関誌「土づくりとエコ農業」への掲載	5 単位/件	★	
		②地方自治体、民間団体、企業等が公式に発行する土づくり関係技術誌等への報告文などの掲載 ※4	5 単位/件		
		③土づくりに関する技術図書の刊行	10～30 単位/件 (単著者、共著者の場合やページ数によって単位数異なる)		
V	業績	①土づくりの実践、指導及び実証調査による作物の収量・品質改善やコスト低減成果 (要レポート提出、成果内容で単位数が異なる) ※5 A. 土壌診断(化学性、物理性と生物性)や生育診断による作物生育改善等の成果 B. 地域(産地等)の取組 ・地域の作物生育不良要因を明確にし、改善対策を実施した成果 ・地域に適合した土壌・施肥管理の指針を確立し、生育改善等を図った成果 C. 個別の取組 a. 土壌診断や生育診断を行う上で基準や指針として活用できる成果(作物別生育特性等との関係で適切な診断の目安となる成果) b. 現地実証調査による成果(排水対策、資材等の効果) c. 新技術導入による実践成果(施肥方式、灌水方式等の改善) d. その他の成果(創意工夫による土づくりに関係する改善成果)	A タイプ: 10～40 単位/件 B タイプ: 10～60 単位/件 (内容により個別又は土壌医の会で申請) C タイプ: 5～30 単位/件		
		②農家グループ等が表彰事業で受賞 ※6 (土づくり関係を含む場合)	10～30 単位/件 (表彰事業の内容によって単位数異なる)		
		③土づくり文献の解析のレポート (多くの資格登録者が関心を有するテーマや内容のものが対象)	5～10 単位/件		
		④土壌医の会の活動業績 ※7 (当該単年度に、正会員平均で 10 単位/人以上となる活動を行なった土壌医の会が対象で、活動に関わった正会員各人に対して土壌医の会の活動業績に応じて単位を付与)	3～15 単位/人		
VI	自己研鑽、その他	①土づくり関係雑誌の定期購読 (複数誌購読でも 1 雑誌のみが認定対象)	・機関誌「土づくりとエコ農業」 ・その他雑誌 ※8	6 単位/年 3 単位/年	★
		②土づくり関係図書(報告文含む)の読後感想レポート ※9		2 単位/件	
		③公的な機関における土づくり関係委員会等の委員就任		10 単位/回	

注記：

1．協会に CPD 単位の実績申請するためには次の証拠資料等が必要である。

※1 土壤医の会が行った講習会等については、開催案内プログラム、会員の参加者名簿を添付する必要がある。

※2 研修会等講師等については、その研修会の依頼文の写しが必要である。

※3 普及活動の対象としては、①については農業高校等との出前研修等の実施協議、②と③については、連絡、案内や資料の作成等諸準備を含む。

②の研修会の開催については、土壤医の会正会員以外の研修会参加者数が正会員で参加した人数より上回る場合を対象とする。

③の pH 等測定・診断相談会の一回開催とは、半日程度の開催を想定しており、午前と午後にまたがって一日開催の場合は二回開催とする。

※4 報告文等掲載誌の該当部分のコピーが必要である。

※5 業績①については次の要領でとりまとめる。

(1)業績は土づくりに関係する取組みにより基本的に作物の生育、収量や品質の向上、病虫害発生抑制、コスト低減、労力節減等に寄与したものを記載する。

(2)業績の中の地域(産地等)の取組は、地域(産地等)の作物の土壤診断、作物診断、実証調査等に基づき収量、品質の底上げやコスト低減が実現できた成果を想定しており、個別の取組みは農家圃場レベルでの個別技術の効果等の実証調査や排水改善等個別技術の導入などによる成果を想定している。

1) A. 土壤診断(化学性、物理性と生物性)や生育診断による作物生育改善等の成果

・一定地域や作物別の圃場を対象とするのみではなく、農家の個別圃場レベルでの土壤診断等による作物生育等改善成果をも対象とする。

2) B. 地域(産地等)の取組

・土壤診断や生育診断により、問題点を明確にして生育等改善を図った成果や現地の気象条件、土壤条件等に合致した土壤管理指針や施肥改善指針を策定し、生育等改善を図った成果を対象とする。

・改善対策の成果が個々の農家や対象圃場以外の周辺に普及しつつあることがポイントとなる。

3) A 及び B の取組とも成果は 800 字以内でまとめる。レポートの構成は①テーマ、②取り組んだ背景、③取組み内容、④主な成果、⑤成果の普及とする。参考書類として 関係する写真、データ等や他機関等への発表資料があれば添付する。

4) C. 個別の取組

ア、a～d の例示

a. 土壤診断や生育診断において、作物別の生育特性等との関係で作土の土壤硬度と根の張りとの関係等適切な診断の目安となり得る指針等の成果

b. 畑の排水、水田の減水深等の対策の実施により改善が見られた取組み事例、・肥料や土壤改良資材の効果を評価した取組み事例

c. 畝内施肥等施肥方式や施肥時期等の改善により作物の収量、品質やコスト低減等が見られた取組み事例、・灌水回数、灌水量等の改善により作物の収量、品質やコスト低減等が見られた取組み事例

d. 農業者等において借地等において堆肥、緑肥等の投入により生育環境の改善が見られた取組み事例、・堆肥製造関係者にあつては堆肥の品質が向上した取組み事例

イ、上記 a～d の成果については、極力写真、データ、受益者の感想等客観的な裏付けとなるものを申請書に盛り込む。関係するデータ、写真入り等で A4 版 1～2 枚程度にまとめる。

ウ、レポートの構成は、①テーマ、②取り組んだ背景、③取組み内容、④主な成果、⑤今後の課題とする。参考として関係するデータや写真等を添付する。

(3) A. B. の取組とも、取り組んだ資格登録者名と土壤医、土づくりマスターや土づくりアドバイザーの資格登録名と登録番号を記入する。また、複数の方で取り組んだ場合にはそれぞれの名前を記入するとともに、寄与割合を記入する。

※6 表彰事業の種類、実施主体、業績内容等がわかる資料を添付する。

※7 土壤医の会の活動業績等の実施状況に関する CPD 評価は、研修会等の開催回数や参加人数、土づくり普及活動の実施状況、土壤医の会として取り組んだ業績(業績①の A と B)を勘案して行う。また、地域土壤医の会にあつては、前述の実施状況とともに前年度と比較しての正会員の増加などを勘案して評価する。

※8 「土づくりとエコ農業」以外の土づくり関係雑誌については、雑誌名を明記する。(学術雑誌は対象から除く)

※9 関心を有する内容の土づくり関係図書(報告文を含む)(発行元や執筆者名を明記)を読み、その内容要旨と今後これを参考に取組んでみたい内容を記述する。

なお、土づくり関係図書(報告文を含む)の読後感想等のレポートの字数は、土づくりアドバイザーは 800 字程度、土づくりマスターは 1,200 字程度、土壤医は 1,600 字程度とする。

2．CPD 単位の時間は、移動、休憩時間を除き、研修プログラムの実質時間を積算し、30 分未満の端数があるときはその端数を切り捨て、30 分以上の端数があるときはこれを 1 時間に切り上げ 1 時間単位に換算した時間とする。